

SONY[®]

取扱説明書

インテグレートステレオアンプ
TA-A1ES

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

3~5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

20ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりと差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ オンラインショッピングサイトまたはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故の原因となります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により死亡や大けがの原因となります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のある場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

内部に水や異物を入れない

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



指示

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止

付属の電源コードやACパワーアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因になります。



禁止

⚠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちつけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- ▶ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

設置上のご注意

本機の角だけがなどをしないように、お気をつけください。



注意

心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。



電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

このマークは「高温注意 (Hot Surface)」を意味します。
動作中に、この面をさわると熱く感じことがあります。



電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

+とーの向きを正しく入れる

+とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

目次

安全のために	2
本機の特長	8
<hr/>	
各部の名前と働き	
本体前面	9
本体後面	10
リモコン	11
<hr/>	
接続と準備	
スピーカーを接続する	12
機器を接続する	14
本体とリモコンを準備する	16
<hr/>	
音楽を聞く	
つないだ機器の音声を楽しむ	18
ヘッドホンの設定をする	19
オートスタンバイの設定をする	19
<hr/>	
その他	
使用上のご注意	20
故障かな?と思ったら	21
本機を初期設定状態に戻す	22
保証書とアフターサービス	23
主な仕様	24

本機の特長

シングルプッシュプルのパワーアンプ

本機のパワーアンプは、シングルプッシュプルアンプで大出力を可能にしました。

音の決め手になる電力増幅段は一対のみのトランジスタで構成し、一般的なアンプで熱暴走を抑えるために使われるエミッタ抵抗の削除にも成功。スピーカーはトランジスタの出力で直接ドライブされることになり、より色づけの少ない音質になります。

フレーム・ビーム・ベースシャーシ（FBBシャーシ）

フレーム・ビーム・ベースシャーシをステレオアンプ用として開発しました。

今までのフレーム・ビーム・シャーシに、精度が高く剛性の高いトランスペースを組み合わせることにより、フレームのブレをより抑え、全体の歪みが少なく、響きの良い音になります。

新設計大型スピーカー端子

音質劣化の少ない端子になっており、Yラグや素線をしっかりと締めることができます。バナナ端子にも対応しています。また、これらを併用してバイワイヤリング接続にも対応できます。

ヘッドホン専用のディスクリート構成のアンプを搭載

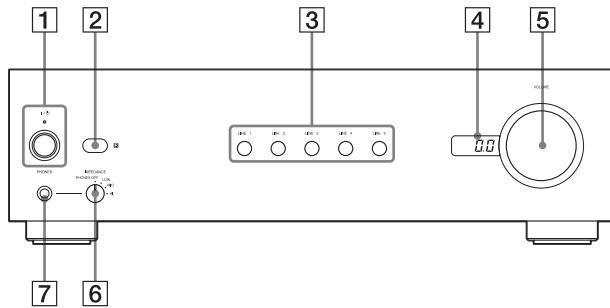
本機は、ヘッドホン専用のディスクリートアンプを搭載しています。LOW/MID/HIとインピーダンス切り換えができ、ヘッドホンにマッチしたインピーダンスでドライブできます。

全段ディスクリート構成のプリアンプ

本機は、信号切り換えに音のロスのないリレーを、アンプには全段ディスクリート回路を採用し、回路の適正化と高性能化を行っています。

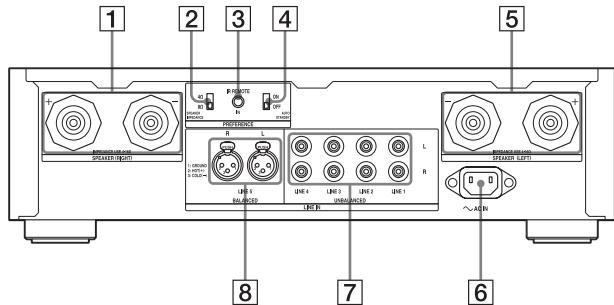
各部の名前と働き

本体前面



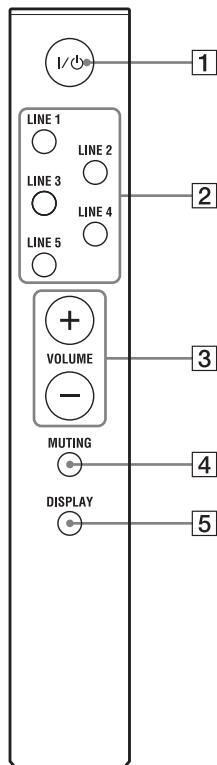
名称	働き
① I/O (電源オン／スタンバイ) スイッチ／ランプ	本機（アンプ）の電源を入/切します（17ページ）。電源を入れるとランプが緑に点灯します。
② リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
③ LINE 1/2/3/4/5ボタン	再生する入力ソースを選びます（18ページ）。選ばれている入力のボタンの周囲が点灯します。
④ VOLUME値表示部	音量を表示します。
⑤ VOLUMEつまみ	スピーカーおよびヘッドホンの音量を調節します（18ページ）。音量は-∞ dBから0 dBまで調節できます。
⑥ IMPEDANCEつまみ	スピーカーから音を出すときは、PHONES OFFにします。ヘッドホンから音を出すときは、LOW～HIGHにします（19ページ）。
⑦ PHONES端子	ヘッドホンをつなぎます。

本体背面



名称	働き
① SPEAKER (RIGHT) 端子	右スピーカーをつなぎます（12ページ）。
② SPEAKER IMPEDANCE スイッチ (4 Ω/8 Ω)	接続したスピーカーのインピーダンスに合わせて切り替えます（12ページ）。
③ IR REMOTE端子	IRリピーター（別売）をつなぎます（15ページ）。
④ AUTO STANDBYスイッチ (ON/OFF)	「ON」にすると、音声出力が約10分から15分間ないとき自動的にスタンバイ状態に切り替えます（19ページ）。
⑤ SPEAKER (LEFT) 端子	左スピーカーをつなぎます（12ページ）。
⑥ AC IN (電源) 端子	付属の電源コードをつなぎます（16ページ）。
⑦ UNBALANCED LINE 1/2/3/4 L/R端子	アナログ音声機器をオーディオ接続コードでつなぎます（14ページ）。
⑧ BALANCED LINE 5 L/R 端子	アナログ音声機器をXLR（バランス）コードでつなぎます（14ページ）。

リモコン



名称	働き
① I/O (電源オン／スタンバイ) ボタン	本機（アンプ）の電源を入/切します（17ページ）。
② LINE 1/2/3/4/5ボタン	再生する入力ソースを選びます（18ページ）。
③ VOLUME +/−ボタン	スピーカーおよびヘッドホンの音量を調節します（18ページ）。 音量は $-\infty$ dBから0 dBまで調節できます。
④ MUTINGボタン	音を一時的に消したいときに押します（18ページ）。
⑤ DISPLAYボタン	I/Oランプ以外の表示を点灯・消灯します。

接続と準備

スピーカーを接続する

スピーカーのスピーカー端子と本機のSPEAKER端子を接続します。スピーカーをつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。別売のスピーカーコードを使います。

スピーカーコード（別売）



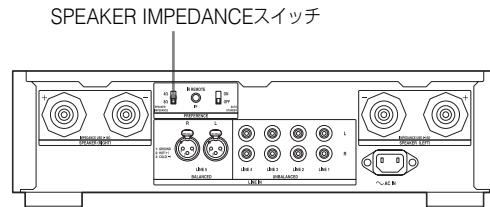
スピーカー接続時のご注意

- 左スピーカーはSPEAKER (LEFT) 端子に、右スピーカーはSPEAKER (RIGHT) 端子に接続します。
- スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて+は+同士、-は-同士で接続します。スピーカーコードは線やマークのある側を+と決めておくと、極性を間違えることがありません。
- 接続するときは、コードの先が本体や他の端子に触れないようにご注意ください。ショートなどにより、本機の故障の原因となります。

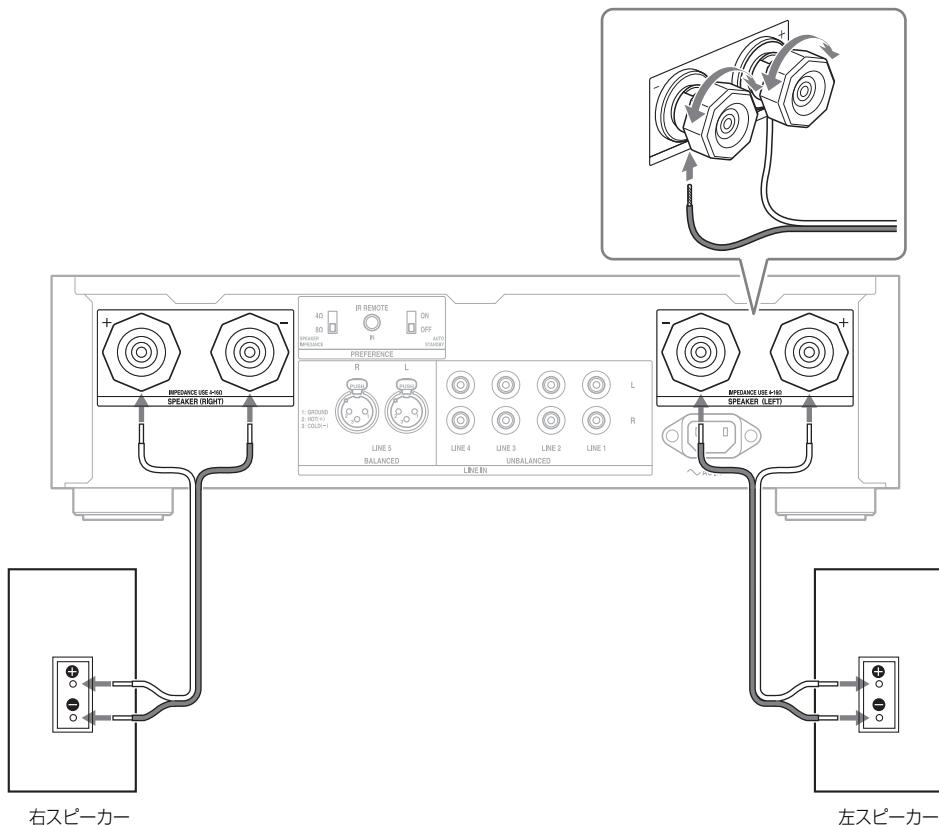
スピーカーインピーダンスの設定について

- SPEAKER IMPEDANCEスイッチを切り換えるときは、必ず電源を切ってください。電源が入っているときに操作しても切り換わりません。
- 8 Ω以上のスピーカーをつないだ場合は、SPEAKER IMPEDANCEスイッチを「8 Ω」にしてください。それ以外の場合は「4 Ω」にしてください。
- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にはインピーダンスが表示されています）。

お使いのスピーカーのインピーダンスとSPEAKER IMPEDANCEスイッチの設定



スピーカー	SPEAKER IMPEDANCE スイッチの設定
4 Ω以上8 Ω未満のスピーカー	4 Ω
8 Ω以上16 Ω以下のスピーカー	8 Ω



機器を接続する

スーパー・オーディオCDプレーヤーやCDプレーヤーなどのアナログライン出力端子と接続します。

本機はPhono/フォノ入力に対応していません。

機器をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

接続にはオーディオ接続コードまたはXLR（バランス）コードを使います。

ご注意

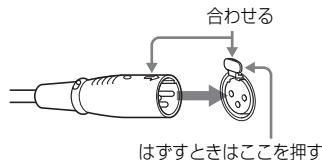
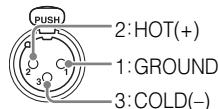
- XLR（バランス）コードはロックされているため、引くだけでは抜けません。
- コードをつないだまま持ち運ぶと、機器を破損するおそれがあります。必ず抜いてから、持ち運びしてください。
- コードはしっかりと確実に接続してください。確実に接続されていないと雑音が発生する原因となります。

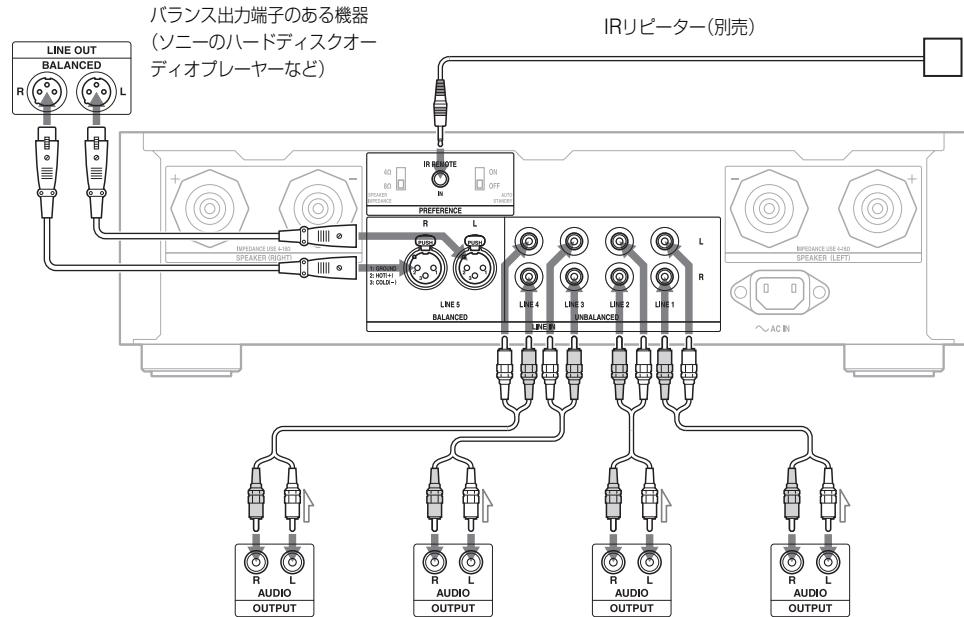
オーディオ接続コード（別売）

接続コードの白いプラグはL端子へ、赤いプラグはR端子へ接続します。



XLR（バランス）コード（別売）





スーパー・オーディオCDプレーヤー、CDプレーヤー、ネットワークプレーヤーなどのアナログライン出力端子

- ・本機はPhono/フォノ入力に対応していません。
 - ・すべてのコードをつなぐ必要はありません。
 - ・お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

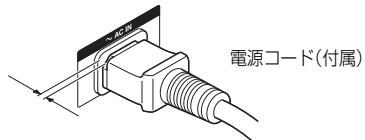
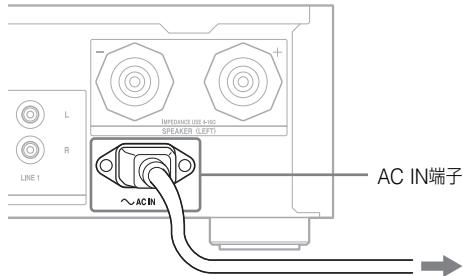
ちょっと一言

IRリピーター出力端子を持つソニー製機器をつなぐと、つないだ機器から本機の基本操作ができます。詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご参照ください。

本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

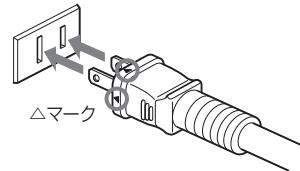
付属の電源コードを本機後面のAC IN端子に確実につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。



本機後面に電源コードを奥まで差し
込んでも、プラグと本機後面の間に
数ミリの隙間ができるますが、これで
正しくつながれています。

付属の電源コードについて

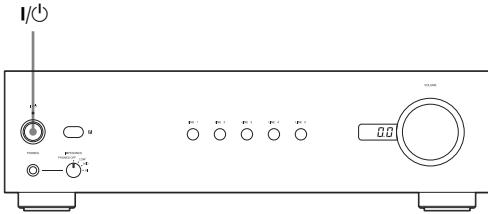
- 付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。
- 付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。



接続時のご注意

- スピーカーや機器をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は動作不安定の原因となります。

本機の電源を入れる



I/Oを押して本機の電源を入れる。

リモコンのI/Oを押しても本機の電源を入れることができます。

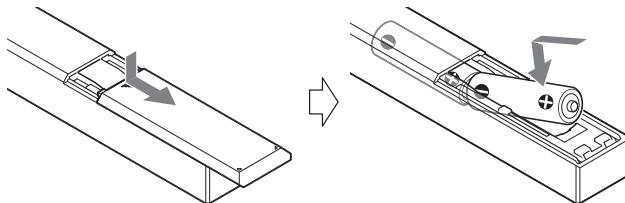
電源を切るときは、もう一度I/Oを押します。

電源が入っているときはI/Oランプが緑色に点灯します。

本機に異常が起こったときは赤く点灯します。赤く点灯した場合は、スピーカー出力やヘッドホン出力のショートが考えられます。原因を除いてから再度電源を入れてください。

リモコンに電池を入れる

+と-の向きを合わせて、リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）2本を入れます。



ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - +と-の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言

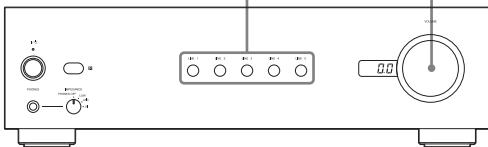
乾電池の残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

音楽を聞く

つないだ機器の音声を楽しむ

2

4



1 再生したい機器の電源を入れる。

2 LINE 1/2/3/4/5ボタンを押して、再生したい機器をつないだ入力を選ぶ。

3 つないだ機器を再生する。

4 VOLUMEつまみを回して、音量を調節する。

音を一時的に消すには

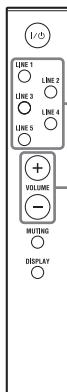
リモコンのMUTINGボタンを押します。解除するには、MUTINGボタンをもう一度押します。またはVOLUMEつまみを回して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

スピーカーの破損を防ぐために

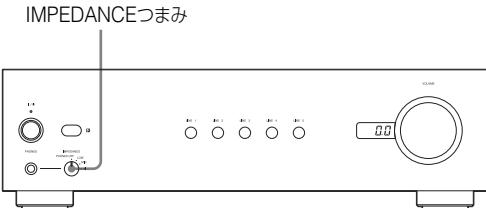
電源を切る前に音量を $-\infty$ にすることをおすすめします。

2

4



ヘッドホンの設定をする



IMPEDANCEつまみでヘッドホンのインピーダンスを設定する。

つまみ位置	対応するインピーダンス
LOW	8 Ω以上～50 Ω未満
MID	50 Ω以上～300 Ω未満 (LOWに対して+10 dB)
HI	300 Ω以上 (LOWに対して+16 dB)

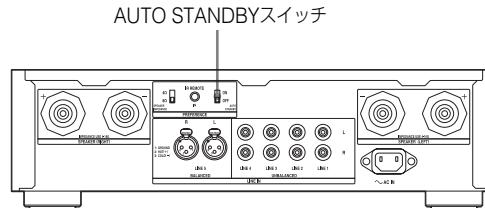
お持ちのヘッドホンのインピーダンスが不明のときは
LOWに設定して音量を確認しながら適切な音量のポジションを選んでください。

ご注意

- IMPEDANCEつまみを切り換えたときは、
 - 音量は $-\infty$ dBになります。
 - 約8秒間は、音量を上げても、ヘッドホンから音が出ません。この間に音量を上げすぎないようにしてください。

- 「PHONES OFF」にすると、ヘッドホンからは音が出ません。
- 「LOW/MID/HI」にすると、スピーカーからは音が出ません。

オートスタンバイの設定をする



AUTO STANDBYスイッチを「ON」にすると、スピーカーまたはヘッドホン出力が約10～15分間一定のレベル以下になると本機がスタンバイ状態になります（オートスタンバイ機能）。そのため、小さな音量で聞き続けると、オートスタンバイ機能が働いてしまうことがあります。その場合は、AUTO STANDBYスイッチを「OFF」にしてお使いください。

オートスタンバイ機能が有効になる出力レベル、および本機がスタンバイ状態になるまでの時間は、お使いの環境によって異なります。

その他

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。

次のような場所には置かないでください。

- ・ぐらついた台の上や不安定な場所。
- ・じゅうたんや布団の上。
- ・湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ・ほこりの多い所。
- ・密閉された所。
- ・直射日光が当たる所、温度が高い所。
- ・極端に寒い所。
- ・テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー やベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。

本機の電源が勝手に切れてしまう

→ オートスタンバイ機能が働いている。裏面のAUTO STANDBYスイッチを「OFF」にする。

電源ランプが赤く点灯している

→ アンプに異常が起こった場合には赤く点灯します。この場合はスピーカー出力のショートやヘッドフォンの出力のショート、天板の通風孔がふさがれていることが考えられます。原因を除いてから再度電源を入れてください。それでも赤く点灯する場合は、電源コードを抜いて、ソニーサービス窓口にご相談ください。

音声

どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
→ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。
→ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。

- VOLUMEのレベルが $-\infty$ dBになっていないか確認する。
- MUTINGを押して、消音機能を解除する。
- 本体のLINE 1/2/3/4/5ランプで正しい入力が選ばれているか確認する。
- IMPEDANCEつまみの位置を確認する。
スピーカーで聞くときには「PHONES OFF」の位置に、ヘッドホンで聞くときにはお使いのヘッドホンに適したインピーダンスの位置にしてください。
- 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れる。

選んだ機器から音が出ない

→ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

片方のスピーカーから音が出ない

- ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、IMPEDANCEつまみを「LOW」にして、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。
ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、スピーカーが正しく接続されません。正しく接続されているか確認してください。
- モノラル機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。この場合は、モノラルステレオ変換ケーブル（別売）を使ってL/R両方の端子に接続してください。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。

[次のページへつづく](#)

- テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

レコードからの音声が小さい

- 本機はPhono/フォノ入力に対応していません。市販のフォノイコライザーを使用し、そこからのアナログ出力を本機につないでください。

リモコン

リモコンで操作できない

- 本体のリモコン受光部に向けて操作する。
- リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池を交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

本機を初期設定状態に戻す

電源が切れているときに、本機のI/Offボタンを5秒間押し続けると、本機をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または本取扱説明書の裏表紙にあるソニーの相談窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：TA-A1ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

定格出力

80 W + 80 W
20 Hz ~ 20 kHz 0.09 % 8 Ω

スピーカー適合インピーダンス

4 Ωまたはそれ以上

全高調波歪率

0.008 %
1 kHz 10 W 8 Ω

周波数特性

10 Hz ~ 100 kHz ±3 dB (8 Ω時)

入力 (UNBALANCED)

入力感度 : 150 mV
入力インピーダンス : 47 kΩ
S/N比 : 96 dB
(入力ショート、20 kHz LPF、Aネットワーク)

入力 (BALANCED)

入力インピーダンス : 20 kΩ/20 kΩ
S/N比 : 96 dB
(入力ショート、20 kHz LPF、Aネットワーク)

ヘッドホンアンプ部

適合インピーダンス

LOW : 8 Ω以上～50 Ω未満に対応
MID : 50 Ω以上～300 Ω未満に対応 (LOWに対して+10 dB)
HI : 300 Ω以上に対応 (LOWに対して+16 dB)

全高調波歪率

0.1 %以下
20 Hz ~ 20 kHz
LOW (8 Ω負荷) 500 mW + 500 mW
MID (150 Ω負荷) 500 mW + 500 mW
HI (300 Ω負荷) 250 mW + 250 mW

周波数特性

10 Hz ~ 100 kHz +0.5/-3 dB (LOWモード8 Ω負荷時)

電源、その他

電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 180 W
スタンバイ時 : 0.4 W
最大外形寸法 約430 mm × 130 mm × 420 mm
(幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む)

質量 約17.0 kg

付属品
電源コード (1)
リモコン : RM-AAU181 (1)
単4形マンガン乾電池 (2)
取扱説明書 (本書) (1)
保証書 (1)

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル0120-333-020	フリーダイヤル0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。	

FAX(共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



* 4 4 7 5 0 1 2 0 2 * (3)